

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3070103084		
法人名	社会福祉法人安原福祉会		
事業所名	あいの里悠々 おいし		
所在地	和歌山市松原115番地		
自己評価作成日	平成22年5月20日	評価結果市町村受理日	平成22年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=3070103084&SGD=320>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年6月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは地域に開けた施設・地域と共に支え合う施設を目標としています。地域住民に理解して頂くことができるよう、民生委員・地域自治会長・小学校・幼稚園等との交流・関わり合いを重要視しています。  
また、日常の介護においても本人の自己決定を大切に、入居者の方が日常生活にストレス等を抱くことなく、入居者・家族の方が安心して日々を過ごして頂けるように支援しています。そういった中で本人・家族の方が施設内で看取りを希望される場合については、当人・家族・医師・医療機関・事業所スタッフと話し合い、相互に支え合いながら支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット独自の理念を介護職員、管理者と話し合いながら作成し、処遇会議や申し送り時に理念について話し合いを実施して、ケアの統一を図って実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校や幼稚園の慰問等で地域交流を図っている。また、自治会のイチゴ狩りに招待して頂いたり、芋掘りに参加したりして地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー実習の受け入れて、認知症介護についての勉強会を実施したり、地域の公共機関等で介護保険制度、認知症介護の相談会を2ヶ月に1回実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、自治会長、地域包括センター、入居者家族を交えて会議を実施している。各ユニットの実践報告・介護保険制度について・地域行事の情報を頂き地域交流に参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者と家族の関係について、地域包括センター・地域に報告し検討している。又、困難事例等・運営中に問題があると行政に報告し共有を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各管理者が身体拘束の研修を受講し、なぜ身体拘束をしてはいけないのかをレポートにまとめ職員に対して研修会を実施して理解してもらえるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を受けている。入居者の家族から虐待の訴えがあるのを聞くと、地域包括センターや市役所等に相談して改善できるように支援している。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を受けている。研修後には職員に報告し皆が理解できる体制をとっている。現在、ユニットには権利擁護を受けている入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事故説明書をきちんと説明を実施して入居者・入居者家族・居宅介護支援専門員等に方針等を理解して入所してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催して家族との話し合いの機会を持ち意見交換を実施している。その他、都度、入居者の家族と意思疎通が図れるように日々の状況を手紙や電話にて家族の方に伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフとコミュニケーションを図り、意見や提案を聞く機会を設けている。不満など言い出しにくい部分もあるが出来るだけ話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書及び人事考課表を用いて書く職員の意見や要望を代表者が把握できるようにしている。代表者がヒアリングを行ない向上心を持って日々の仕事に打ち込めるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービスケアネット和歌山の研修会での意見交換会や、認知症高齢者研修に積極的に参加し現場のケアに活かせるように話し合っている。又、意見を出し合いスタッフ同士の意欲向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山の研修会での意見交換会や、認知症高齢者研修を通じて同業者と交流を重ね、他事業所の良いところを取り入れ良いケアができるように工夫している。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人のデイサービスや、小規模多機能からの利用者さんを優先的に入所できるように努めリロケーションダメージを防止するようにしている。又、事前訪問等でケアマネジャー家族と話し合い本人の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後頻繁に連絡を取り本人及び家族の不安を取り除けるように支援している。又、家族会の実施や面会時等職員が積極的に話し掛け意思疎通が図れるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問や入所契約時本人・家族の想い状況等を確認し本人がグループホームで本人らしく生き活きとした日常生活を送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者という意識を持たず、掃除、洗濯、炊事等職員と利用者が相互に支援し合い助け合う雰囲気作りを心掛けて支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって心の支えは家族であるので日頃の状態を報告し相談している。家族と同じ思いで本人を支援していけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が面会に来られた時は、ゆったりと時間を通して頂けるような雰囲気作りをしています。又、入居者から要望等があった場合については電話連絡等もとれるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士一緒に会話されたり共同作業を行ない相互に助け合いながらうまくいくようにスタッフが手助けを実施している。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても夏祭り等に参加していただいたりしながら継続的に支えていけるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日々の関わりの中で本人の言動、表情からその真意を推測し意思を把握できるように努め本人にとってどのように暮らすのが一番良いか家族と共に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、生活歴や環境サービス利用に至った経緯等を本人や家族の訪問時に聞きとる等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況を総合的に把握しできることを維持しながら常に本人の可能性を求め、安心して生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させている。スタッフで意見交換・モニタリング・カンファレンスを行ない介護計画に活かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体状況及び日々の生活状況を本人の言動等記録をしている。職員がいつでも確認できるようにしており勤務時間前の確認を義務付け情報を共有し日々の支援や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方が、体調急変時等があった場合等、家族・主治医・総合医療機関と連携をとり通院・救急時の救急搬送等を実施して臨機応変に対応している。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員をはじめ、地域の交番、消防署と連携を実施して救命救急法の講習会を実施している。又、幼稚園児の慰問、地域の畑作りの手伝いなどの協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医となっているが、往診に来てくれる事業所の協力医にお願いするケースが多い。ほとんどの方は、入所される時に協力医を希望される。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき週1回健康管理や相談を行っている。介護職員の記録をもとに報告・相談をする。その他、九返答があった場合など24時間電話で相談でき適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何度も病院に足を運び入院先の病院の主治医と話をする機会を持っている。退院後ホーム内での対応が鹿野であればホーム内の協力医に診断書書いてもらい情報交換をすることで早期退院に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の思いを尊重し週末に向けて早い段階から事業所・家族・主治医と話し合いを持つことで承諾書にサインを頂き安心してサービスを利用できるように支援している。必要時には家族にホームに来てもらい、入居者を一緒に支えていくことができるよう声かけを実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、体調急変時等の連絡方法などは事業所に連絡網を貼り常に対応できるようにしている。応急手当や救命救急マニュアルがあり、スタッフ全員が確認できる場所に設置している。救急時の対応等隊員による研修会等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の消防隊員による避難訓練を毎年実施している。災害時には地域の消防団も協力してくれる連携体制を確保している。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し声をかける工夫をし個別ケアを尊重しえている。外部へ入居者のプライバシーに関する事は、話さないようにし職員・管理者も含め周知徹底している。個人情報には常に鍵のかかる場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の為、ある程度の我慢はあると思うができるだけ声かけをし自己決定を大切にしています。職員の考えを押し付けるのではなく自己決定できるような場面作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや、都合を優先すると束縛につながり混乱を招いてしまう為、一人ひとりの状態を考えながら入居者の思いにスタッフが応えられるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用されカットの要望は自ら言う事が出来、入居者本人の要望に合ったスタイルでカットしている。洋服等においても入居者が気に入った服を着ていただくよう声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを日常生活の中で入居者に相談する職員と一緒に台所に立ち調理をしている。 食事時職員が、一緒に食事をする事で会話を楽しんでいる。後片付け等も入居者・職員相互に助け合いながら実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、毎食後チェックして記録をしている。菓分はその都度摂取してもらい回数を記録に残している。又、水分拒否される入居者の方については、スポーツドリンク・紅茶等、味が付いているものを好まれるので、本人の好みに応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や利用者の気持ちを配慮した方法で支援している。自分でできる方は声かけ見守りを実施し、できない方についてはスタッフが介助を行い口腔ケアを実施している。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方でも時間を決めトイレ誘導する事でトイレでの排泄が可能となり本人の生活リズムに沿った支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の勧めと植物繊維を多く摂取し、体を動かすことにより、新陳代謝を良くするように工夫したりしている。どうしても無理な場合については医師から下剤の服用の指示があり服薬をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は人員配置の都合で昼間の入浴となっているが、入居者本人に希望する時間を聴いたりして支援を実施している。又、夜間便失禁や不眠症の入居者の場合については、ケースに応じて入浴できるよう柔軟に対応できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し夜間良眠できるように努めている。寝付けないときには足浴や、温かいものを飲んだり、会話をしたりして良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に入居者個々の服薬効果、副作用について情報をもらい職員全員が服薬の内容を把握している。誤薬のないよう一人一人の名前と薬を確認し事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・ゴミ捨て等を毎日行い、一人ひとりの力を発揮してもらえるように支援している。カラオケや梅干し作り、ケーキ作り等入居者の経験や知恵を活かせる場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と車でドライブ買い物散歩等を行い季節を感じて貰ったり、外食・お弁当を持って野外に出掛けたり、スタッフが声かけを行い家族と一緒に散歩・ドライブを楽しまれたりして外出機会を増やしている。		

あいの里 悠々（おいし）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の小遣いは持って頂いているが、物忘れ・妄想等入居者同士のトラブルもあり、今は持って貰っていない。買い物時、入居者の方に職員が立て替え金を渡し、入居者の希望の商品を購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等大切な人に行ったりする支援等をしている。自らが時間を決め家族に電話をかけたり職員が番号を押し入居者の希望に応じ日常的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの品や入居者の写真を玄関に飾ったり、庭に咲いている季節の花を居室やリビングに飾ったりしながら工夫して生活環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールで一人で過ごしたり、リビングのソファに座ったり仲の良い友達同士でくつろいで入居者同士相互に助け合いながら日常生活を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族の方に慣れ親しんだものを持って生きていただくよう依頼している。床には畳を敷いたり、使い慣れたタンスなどおかれたりして在宅で生活していた時の継続性を重視している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除・洗濯・炊事を職員と一緒に携わっている能力を十分に使っています。困惑した時は、入居者の話を傾聴し時間をかけてゆっくり帰結できるように支援している。		